

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：中島威夫

事業名	一般国道322号 <small>やまだ</small> 山田バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	福岡県	
起終点	自： <small>ふくおかけんたがわしいのくに</small> 福岡県田川市猪国 至： <small>ふくおかけんかほまちおおくま</small> 福岡県嘉穂町大隈			延長	4.3 km		
事業概要	山田市の交通混雑、線形不良の解消を図るため、延長4.3kmのバイパス事業を昭和57年度から実施している。現在までに、1.6kmの供用を開始している。						
S57年度事業化	都市計画決定なし (H 年度変更)		S61年度用地着手	H2年度工事着手			
全体事業費	83 億円		事業進捗率	62.8%		供用済延長	1.6 km
計画交通量	7,700台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 5.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 27/90億円 (事業費：24/86億円 維持管理費：3/3億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 140/140億円 (走行時間短縮便益：137/137億円 走行費用減少便益：2/2億円 交通事故減少便益：1/1億円)	基準年 平成15年			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 個性ある地域の形成（拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する） 災害への備え（対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある） 						
関係する地方公共団体等の意見	昭和46年度に24市町村により一般国道322号線整備促進期成会（会長 田川市長）が発足しており、その他に一般国道改修（トンネル）促進期成会（会長 嘉穂町長）、国道322号改良促進協議会（会長 大刀洗町長）などの期成会による国や県に対し活発な要望活動（H15.7）が行われている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	石炭産業の撤退により産業経済が著しく衰退している。昭和63年度の交通量4,252台/日から平成11年度の交通量5,000台/日となっており約2割の交通量が増加している。						
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在までに1.6kmを部分供用しており、平成15年度末までに62.8%の事業進捗の予定。 残事業：物件6件、用地面積 A=68,800m ² 、橋梁3橋、舗装 L=1.75km						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	事業効果の早期発現を図るため施工区間を2区間に分け事業費の集中投資を図りながら、第1期区間を平成10年代後半を目指して完成させるとともに、速やかに第2期区間に着手し平成20年代前半の供用に向けて事業の推進を図る。						
施設の構造や工法の変更等	経済性を考慮した最適な平面や縦断の線形を選定するとともに、各種工法の採用においても常に経済性を視野に入れて、コスト縮減を図っている。今後も、新工法・新技術等を積極的に検討・採用し、コスト縮減に努めていく。						
対応方針	継続						
対応方針決定の理由	第1次緊急輸送道路ネットワークに指定されるものの、未改良であり、防災点検箇所を含み、迂回する代替道路もないなど整備の必要性が高く、山田市の地域振興計画を支援するため						
事業概要図	<p>一般国道322号 山田バイパス L = 4.3 km 供用済 L=1.6km</p> <p>起点 田川市猪国 <small>たがわしいのくに</small></p> <p>終点 嘉穂町大隈 <small>かほまちおおくま</small></p> <p>至北九州市 至久留米市</p> <p>凡例 ■ 供用中 □ 事業中 ▨ 再評価箇所 ▩ うち供用中</p>						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。